

放課後等デイサービス 事業所職員 評価結果

討議年月日：令和 3 年 12 月 20 日

公表：令和 4 年 3 月 3 日

%に変換

事業所名；基本塾優遊 八坂西

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	法的には活動スペースの足りていることを説明し、活動内容を考えてもらえるよう説明した。	法的には問題ないが、活動内容に応じて、活動場所を工夫して活動している。
	2 職員の配置数は適切である	90%	10%		法的には満たしているが活動内容や展開によって感じているようだ。活動内容や展開場所（支援体制）を考慮した。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	70%	30%		現状では、必要ないが今後必要になった場合は設備を改善していく予定である。特に玄関の段差を考慮したい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	朝の打合せ等でもケース会議を実施している。	打合せや研修会でも話し合いを進めたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	評価表の回収率が昨年度よりも上回るよう呼びかけをした。	サービス提供記録にも保護者欄を設けて希望や意見を記入してもらっている。それをできるだけ多くのスタッフに公開するようにしたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		公開情報を知らない職員が多かったので、今後公開されたら知らせるようにしたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		外部評価を行っていることを知らない職員が多かったので、今後周知徹底し、業務改善に役立てたい。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	専門家による研修会を実施している。		
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	利用者の情報をスタッフで客観的に分析して計画に役立てている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		今後も引き続き、共通理解を図り、使いたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	それぞれが考えた教材、活動をみんなで協議して決めている。	教材研究をする時間を確保している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	一人一人が開発した教材を持ちより話し合いをし、プログラムを決めている。	教材開発の時間を設けている。そして、それをスタッフ全体で検討するようにしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	特別講師を招聘して活動内容を豊富にしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ケース会議を多く実施している。	毎朝の打合せの時間に必ず利用者の状況を話し合い、その日の活動支援を考えている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝は必ず打合せの時間を取っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		支援の振り返りを優先順位1番に考え、必ず打合せをしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		サービス提供記録に取っている。記録はスタッフ全員にその日の活動の様子を聞きながら書くようにしている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		モニタリング担当を通して、保護者の意見や要望を連絡してもらい、スタッフで共通理解を図っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	70%	30%		行っているが、まだまだ研修をしなければならない。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		参加している。会議の内容については後で報告を受けている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%		理事長を通して、学校と連絡を取ってもらい、それを基にスタッフと話し合い、共通理解を図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%		まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は連絡体制を取りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		問題が発生した場合は、そのようにしたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は支援内容等の情報は提供したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%		まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は支援内容等の情報は提供したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	コロナ禍のため控えている。	近くの公園で近所の子どもたちと仲よく遊んでいるが、今後交流場所や他機関と連絡を取り、交流の機会を持ちたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		理事長が参加している。その報告を受けて支援に生かしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や電話や、来所したとき等に今の様子について伝えている。そして、保護者の思いや願いを聞くようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	保護者学習会を毎月実施して、日頃の悩みなどを話し合う機会を設けている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%	契約時や問い合わせのあったときは、丁寧に対応し理解してもらっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		個別支援計画等での面談の時に保護者の悩みがある場合は丁寧に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	月に1回理事長を中心に研修会を開催している。	多くの保護者が参加してくれるように呼びかけている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情があった場合はそのことについて、スタッフから情報収集してから保護者に対応するようにしている。	苦情があった場合は、即、家庭訪問をしたり、電話で懇切丁寧に真摯に話を聞いたりして、その苦情の解消に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	優遊だよりという開放を月1回発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		個人情報の資料や情報については、他の人の目に触れないように管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	話を聞く時間を確保している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	新型コロナウイルスの感染拡大のために控えているが、工夫して実施する予定である。	以前は実施していたが、コロナ禍のため控えている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	90%	10%		緊急対応マニュアルは各家庭に配布している。他のマニュアルについても優遊だより等で随時お知らせしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		自然災害や人為的災害については、随時必要に応じて子どもたちに情報を提供している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		虐待マニュアルを作成し、スタッフに周知徹底を図った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		身体拘束場面を想定し、文書で保護者に承諾をもらっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		アレルギーについては毎年、年度初めにアンケートを取り、対応している。医師の指示を受けている子どもはいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		事例が発生した場合は、事例検討会を開き、ヒヤリハットを作成して共通理解を図っている。